

メカニク知っ得講座 父

アウトドライブのギヤオイルについて

解説：(株)ポートオブ岡山 有松 美樹

アウトドライブケースの中にはギヤやクラッチが組み込まれています。そこに満たされているギヤオイルの量、汚れ、漏れ、水の混入などについて点検し交換する必要があります。

ギヤオイルは使用すれば汚れ、その性能は低下しますので、必要に応じて定期的に交換してください。

ギヤオイルの点検の仕方

- エンジンを始動する前に行います。
- オイルの量は、点検窓があればレベルで、またはドライブヘッドのデブスゲージで見ます。
- オイルが真っ黒くなっていないか、金属片やゴミが混ざっていないか、下のドレンをはずして指で薄く延ばして見ます。
- オイルに粘度が無くなっていないか、また白濁していないか見ます。



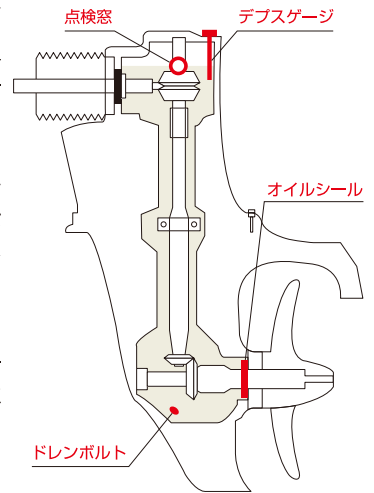
点検窓



デブスゲージ

ギヤオイルの交換の仕方

- アウトドライブユニット下部のドレンボルトをはずし、ユニット上部のデブスゲージ、またはアップレベルドレンプラグをはずして、下部のドレンホールから排出します。
- このとき、中のギヤオイルが抜けるのに時間が掛かりますので、ギヤオイルが落ちてこなくなるまでしばらく受け皿で受けて、廃油は必ず回収して下さい。
- ギヤオイルの注入は下部のドレンホールより行き、上部のアップレベルドレンホールから少し出てくるまで、またはデブスゲージがある場合はレベルまで注入します。
- オイルの交換時には、ドレンプラグのパッキンも交換するようにしましょう。



ギヤオイルが白濁している場合

ギヤオイルに白濁が見られる場合、ドライブユニットに水が入っていますので、ユニットを点検しましょう。水が入る原因として以下のことが考えられます。

- ① ドレンプラグの緩みかパッキンの不良
- ② プロペラシャフトのオイルシールの不良
- ③ 点検窓のシールの不良
- ④ アッパーギヤユニットとローワーユニットの接合部の不良

プロペラシャフトのオイルシールの不良の原因としては、プロペラを何かにあてて破損し、バランスがとれていない状態で振動があるまま乗っていたり、プロペラシャフトに釣り糸などを巻きつけて、オイルシールを傷めてしまうことが原因でしょう。



オイルシール



プロペラシャフト



釣り糸などが絡むことがあります

また、プロペラシャフトのオイルシールのリップ部にグリスを塗り込むと、オイルシールの働きを妨げ、これが原因で水が入ることもあります。